

若者に伝えたい 人間風船論と階段成長論。 新しい本学に期待してほしい

「私

ってこういう人だから」という話し方をする若者がいます。人間は変化していくものなのに、二十歳そこそこで自分を定義し、向き・不向きを決めつけ、卒業後、現実とのギャップにフラストレーション感じてしまうのです。自己実現という言葉がありますが、それは与えられた境遇で必死に生き、他者と支え合い、刺激を受けながら獲得していくもの

のはず。だから私は学生にこう伝えるようにしています。「風船のように、できるだけ自分を膨らませておきなさい」。学問に限らず、読書、スポーツ、友人作りなど何でも構わない。社会に出てからしぼまぬよう、今のうちに可能性を広げておいてほしいのです。

この「人間風船論」とともに私が学生によく語るのが「階段成長論」です。教員はよく「頑張れば成績も伸びる」と口にします。これは半分正しくて半分はうそ。なぜなら人間の成長は、壁にぶつかってはよじ登つての繰り返しであり、右肩上がりの直線を描かないからです。そのため壁にぶつかったときこそ喜んでほしい。それは次のステージへ進む場所までたどり着いた証だからです。

本学の創立者は「偉大なる平凡人たれ」と言いました。企業のトップや偉い学者ではなく、地域社会を支える普通の人を育てるのだという人材育成の方針です。自己の利益のみならず、他者や地域に貢献する人を育て

る。私たちはこの建学の精神に改めて立ち戻らなければなりません。

本学は文理の5学部を擁する総合大学であり、幅広い専門領域をカバーしています。「プロジェクト共育」に代表される独自の教育実践のほか、ソーラーカーや電気自動車、自然エネルギーなど環境共生をキーワードにした個性的な研究も特徴です。また、多くの留学生を受け入れ、孔子学院やアジア共同体研究センターを中心にアジア研究にも力を入れています。「地域」という概念を大学周辺から環太平洋地域まで幅広くとらえ、積極的に貢献していくつもりです。

それらにも増す本学の特色は変革の真只中にあることでしょう。これまで教員の立場で大学改革を訴えてきた民間出身の私が学長に就任したのはこの7月。なったからにはとことんやるつもりです。組織を大きく動かす、各部門とミーティングを重ねています。言葉だけが空回りし、具体的なことを生み出さない改革など行うつもりはありません。まずは一体感が形成され、学内に頑張ろうという雰囲気が出てきたところ。変化する本学に期待してください。



大阪産業大学
学長
金澤成保

【学長プロフィール】かなざわ・しげもり●1951年生まれ京都大学工学部建築学科卒業。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。Ph.D. (コーネル大学)。(株)日建設計、佐賀大学を経て、2001年大阪産業大学人間環境学部教授。同大学人間環境学部長などを経て14年7月より現職。

【大学プロフィール】1965年設立。人間環境学部(文化コミュニケーション学科、生活環境学科、スポーツ健康学科)、経営学部(経営学科、商学科)、経済学部(経済学科、国際経済学科)、デザイン工学部(情報システム学科、建築・環境デザイン学科)、工学部(機械工学科、交通機械工学科、都市創造工学科、電子情報通信工学科)